

第10回8020童話賞

児童生徒の部「童話大賞」作品

「きれいな口の合しゅう」

小学 2年生

あるところに、うたの大すきな女の子のところにちゃんがいました。

にちゃんは、しあげみがきが大すきです。だって、ザラザラだったはが、はぶらしのまほうでツルツルピカピカにへんしんして、とてもうれしい気もちになるからです。

だから、しあげみがきをしてもらっている間は、いつもたをうたってしまいます。

ところがさい近、おとうさんにもおかあさんにも、しあげみがきをしてといわなくなっていました。

なぜかというと、にちゃんもおねえちゃんみたいに、しあげをしないで、ただはを見せるだけにしたいと思ったからです。

にちゃんの口の中には、はのかみさまと、たくさんのはたちがすんでいました。

そのはたちは、にちゃんが、きれいにはをみがいてくれていると、合しゅうをはじめます。

けれども、はにまだたべかすがのこっているときは、合しゅうをすることができません。さい近は、きれいにはをみがかない日がつづいているので、はたちが合しゅうをしなくなっていました。

なので、はのかみさまは、たのしみにしていたうたが聞こえなくなっていましたので、だんだん元気がなくなってきました。はたちは、はのかみさまがこの口のいえから出て行ってしまいかもしれない、と、いつも思っていて、心ばいしていました。

だって、はのかみさまがいなくなってしまう

うと、「わい虫ば女王がきてしまっからです。あるひ、はたちはそうだんして、にちゃんに話すことにしました。

たごはんのあと、にちゃんがはみがきをしているとき、きゅうにはがガタガタゆれだして、しゃべり出しました。

にちゃんは、びっくりして手をはぶらしからはなしてしまいました。

すると一本のはが言いました。

「にちゃん、こんばんは。」

にちゃんは、おどろいたこえで、

「こんばんは。」

と言いました。

「にちゃん、もう少しきれいにはをみがいてくれないと、虫ば女王がきてしまうよ。」

と、前はのが言いました。

それからおくはのが、

「今、にちゃんの口の中は大へんなことになっているんだよ。ぼくたちがきたなくて、うたをうたうことができないんだ。

口の中にははのかみさまがいて、きれいになったぼくたちの合しゅうをたのしみにしているんだよ。」

と、こまったように言いました。

「にちゃん、このままだったら、はのかみさまが、にちゃんの口の中から出て行ってしまっよ。

そっすると、虫ば女王がきてぼくたちのことたべてしまっんだ。」

と、下の前はがふるえながら言いました。

にちゃんは、とてもかなくなっ、何回もごめんねと言いました。

「でも、どうしたらきれいになるの?。」

とにちゃんが聞きました。

すると、ぜんぶのはたちが言いました。

「はのうらがわや、はとはの間をちゃんとみがくといよ。かがみをつかったりして。

そのあと、おとうさんやおかあさんにしあげみがきしてもらうときれいになるよ。

にちゃんは、この前まできれいにみがけ

ていたからできるよ。」

「にこちゃんのはがきれいになると、ほくたちほうたをうたうんだよ。にこちゃんがうたっていたうたと同じだよ。」

と、生まれたばかりの小さなはが言いました。

にこちゃんは、そのうたを思い出しました。そして、またうたいたくなりました。

「♪たのしいはみがきシャカシャカシャカ
♪。」

それから、グラグラの前はが

「80才になっても20本はをのこすことが目ひょうなんだよ。」

虫ば女王がこないようにツルツルピカピカにすればいいんだよ。毎日、しあげみがきをしてもらってね。」

と、にこちゃんにやさしくいいました。

にこちゃんは、はがとても大じなものだとわかりました。

今までよりもっとがんばってはをみがこうと思いました。

そして、はのみんなにありがとうとおれいを言うとかがみをもって、一本一本ていねいにみがきはじめました。

そのあと、しあげみがきをしてもらっている間、にこちゃんは、しぜんにあのうたをうたっていました。

きつと、はだちもいっしょにうたっついで、はのかみさまもうたっていたのかな。

きれいにみがいたはは、ツルツルピカピカになって明るい白いほうせきみたいにかがやいています。